

あさひワークホーム 令和6年度 事業報告

協会が策定した「第5次中期経営計画」（令和4年度～令和8年度）施設の管理運営方針に沿って、実施事業である就労継続B型、生活介護、施設入所及び短期入所において利用者に安心・安全でより質の高いサービスを提供した。

直営施設として、これまでのサービス内容を継続するとともに地域ニーズに合わせたサービス提供をめざした管理運営に努めた。

今年度は、「社会福祉充実計画」（令和4年度～令和13年度）に基づき、8年後を目途とした施設建替え計画のため、建設場所・利用者像・事業内容等、現時点での基本構想（骨格）の確認に努めた。

就労継続支援事業は、コロナ禍からの影響が継続しており、各協力企業からの受注量は全体的に減少傾向にあった。また、施設内で集団ノロウイルス感染症が発生したことで約10日間作業を中断せざるを得ない状況になったが、収入が安定している段ボールの組立作業量は増加傾向にあり、前年度の平均工賃支給額を上回った。今後も単価の高い効率的な作業種目の開拓や新たな自主製品の開発等に努め、工賃向上に向け努力する。

生活介護支援事業は、日中活動として生産活動の他、創作活動の実施、華道・音楽等のボランティア講師の受け入れを継続した。また、週2回の集団リハビリ、スポーツレクリエーション等が定着し、楽しみながら身体を動かす雰囲気づくりに努め、日常生活を快適に送るための身体機能維持・向上に努めた。また、高齢化等による骨粗しょう症防止のため、施設周辺の散歩による機能低下防止及び栄養士による栄養教育等を行い再発防止に努めた。

施設設備については、雨漏りによる屋上防水工事、防災機器の整備、居室エアコンの空調機交換、車いす車両を1台更新し、安全で快適に利用できるよう努めた。

地域における公益的な取り組みとして、福祉村内の施設へ東側駐車場を貸し出した。集団となるような機会の減少やイベント等の縮小により、会議室の貸し出し利用はなかった。

施設経営面では、収益の向上を図るため、利用者の確保や稼働日数を増やす他、障害状況が重度化した利用者の支援区分の見直し調査等を逐次依頼するなど、きめ細かい取り組みに努めた。また、ホームページにより事業所の事業実施状況等を公表するとともに、ホームページ内のブログによって日々の行事、就労作業及び生活状況の紹介を適宜更新するなど、積極的に情報発信を行い、事業活動の安定化に繋げた。

新型コロナウイルス感染症については、国や県からの感染状況の情報に注意を払い予防対策を講じてきた。年間を通じて職員・利用者15名の感染が見られたが、初動の感染対策等により、蔓延することにはなかった。しかし、ノロウイルス感染症については、1月に入所者15名、職員4名が感染し、施設内集団感染（クラスター）が発生してしまった。症状として嘔吐・下痢・発熱・倦怠感等による体調不良者が数名でたが、幸いにも重症化する利用者は見られなかった。普段から感染症対策を確認し、隔離及び防護服での嘔吐・排泄物の処理、水廻りの除菌、換気等を徹底していたものの、感染力が強く急速な感染拡大となってしまった。終息後に反省・問題点等について話し合いの場を設け、特にトイレ内の除菌を徹底するとともに建物内の除菌清掃、換気等を強化し感染防止対策を講じてきた。

以下この一年の施設運営の概要を報告する。

就労支援事業	就労継続支援事業B型サービス	○ 利用者の適性を把握したうえで作業種目を決定し、作業の習熟度を高めるとともに、作業の入荷状況に合わせた人員配置等を行い、作業効率の向上に努めた。自主製品（図面袋等）については、ホームページの活用や県内外の企業から継続的に注文をいただけるよう働きかけるとともに新規顧客の獲得に取り組むことで安定した受注に繋げた。 ○ コロナ禍からの影響が継続し、全体的に得意先からの作業量は減少傾向にあったが、段ボール組立作業の受注量は増加し、僅かではあるが平均工賃は前年度比を上回った。 ○ 工賃の算定は、工賃会議において、個々の作業状況に応じた業績点の見直しを行い適正な評価の精度向上を図るとともに評価方式の検討を行った。また、取引企業への受注量・単価増等の調整をするとともに、作業人員の育成と作業場の環境調整を行い、利益向上に努めた。 ○ 多彩な作業科目を設けるため、片手作業用及び作業効率を上げるための自助具等の作成を試み、幅広い利用者の残存能力を発揮できる環境を整備した。 【別紙①-1,2就労支援実施状況】
--------	----------------	---

生活介護支援事業	日常生活活動 作業活動 趣味活動 余暇活動 支援	○ 個別支援計画に基づき、個々の目標に向けた支援を実施した。 ○ 1日又は半日の選択で生き甲斐としての作業活動を提供し、その対価として工賃を支給した。 ○ <u>カラオケ機器の更新にて日中活動の充実を図り、創作活動で制作した作品を12月、1月に開催された障害者文化展に出品し、絵画が入選した。</u> ○ 機能低下や二次障害防止のため、毎日の体操や週に2回（火・木）の集団リハ等を継続的に実施した。 ○ 定期的な所外活動等がコロナ感染予防により実施できなかったため、公園や施設の周辺を散歩する内容に変更し、気分転換を図るとともに機能低下防止に努めた。 ○ <u>コロナ感染防止対策に留意し、利用者旅行の代替として、昼食をメインとした少人数での外出活動を3回に分けて実施し、潤いのある生活の提供に心掛けた。</u> ○ 寝具類（掛け布団、敷布団、枕）は、毎週火・木曜日にシーツ交換と必要に応じてクリーニングを行い、清潔で快適な生活が送れるよう支援した。 ○ 食事以外の間食コントロールが必要な方に対し、適切なおやつ提供を行うことで楽しみとコミュニケーションの場が提供出来た。 【別紙② 生活介護 日中活動支援状況】 【別紙③ 統計】
	社会活動 支援	○ 利用者が社会参加活動ができるよう、ご案内等があったものの、地域でのコロナ感染状況が継続していたため、施設として一部情報提供を行うことはできなかった。 ○ 活動の一環として、少人数及び個々の対応での外出支援を提供し、利用者の気分転換を図った。障害者文化展への見学はコロナ感染防止対策のため実施できなかった。
	家族との 交流	○ 施設の諸行事にご家族にも参加していただき利用者との交流を図る計画を確認したが、コロナ感染防止対策のため中止とした。 ○ コロナ感染防止対策に留意し、事前予約のうえ、換気等に配慮しながら短時間での面会、<u>混雑した場所を避けての外出・外泊を可能とした。</u> ○ また、必要に応じて電話や通知などにより近況報告を行った。 ○ 年度始めにはご家族向けに前年度の事業や施設行事等を掲載した広報誌を配布した。また、必要により家族も含めた個別面談等を実施し交流を図った。
在宅障害者支援	短期入所	定期的な利用や長期利用もあり、<u>14名の利用者が延べ943日、1日平均2.7人の利用をいただき、利用者個々の利用ニーズに応えることができた。</u> また、コロナ感染防止対策として、利用開始時には検温による体調確認をしたうえで慎重に利用を開始した。 支援にあたっては、利用者の障害や支援状況に応じて利用する居室の場所等を配慮し、安心して生活が送れるよう、日中活動メニューの充実や快適な生活空間を提供した。
	日中一時支援	韮崎市が実施する地域生活支援事業の指定を受け、在宅障害者の平日におけるサービス体制を整えた。今年度の利用はなかった。
	地域福祉 との連携	【地域交流：地域貢献活動】 ○ 地域の構成員として、利用者が地域の方々と好ましい関係をつくり、社会参加の促進を図るには、施設の機能を地域に活用していただく等、地域との連携が必要なことから次の事業を計画した。 ① <u>納涼会（城西高校吹奏楽部による演奏）</u> ② サッカーJ2リーグの招待、コロナ感染防止対策のため中止 ③ <u>地域のシニアクラブ「ボッチャ」（※ノロウイルス感染症蔓延のため欠席）</u> 【峡北地域障がい者自立支援協議会】 ○ 韮崎就労系部会に所属し、事業所間での問題点や福祉を取り巻く制度についての勉強会、工賃向上等についての取り組みを行った。 【ボランティアの受入れ】 ○ 閉鎖的になりがちな入所施設においてボランティアの受入れは、利用者と地域との相互交流と連携を深める貴重な機会であり、<u>個人による華道・音楽や吉屋社員が扮する柳町大神宮の鬼による節分会の実施等のボランティアを受け入れた。</u> 【別紙④ 令和6年度 見学・ボランティア受入状況】

非常災害時等の安全対策

地域移行支援

防災対策	○ 年間防災訓練計画に基づき、夜間訓練を含め年4回の訓練と専門業者による防災器具の法定点検の他、危険箇所等の自主点検も毎月実施し、職員及び利用者の防災意識を高めるとともに安全で迅速な避難体制の確立を図った。 <訓練実施状況>					
	実施日	訓練内容	備 考			
	6月6日	防災訓練 (火災)	非常放送・非常通報・消火・避難誘導訓練他			
	9月10日	総合防災訓練 (地震・火災)	非常放送・地震防護措置・避難誘導・消火・救護炊出・施設間の連絡他			
	1月14日	防災訓練 (夜間想定)	非常放送・非常通報・消火・避難誘導訓練他			
安全管理	3月6日	防災訓練 (地震・水害)	地震想定、図上訓練(災害要因・被害内容・優先避難・利用者確認) 避難経路確認他 (事業継続計画:BCP確認)			
	○ 事故または事故に繋がる危険性がある行動や問題等に直面した場合、事故インシデント報告及び日誌等により、その内容を速やかに報告するとともに職員朝礼や安全対策会議等により対応策を協議し、情報の共有と再発防止を図った。 インシデントは57件、受診を伴う事故は4件が報告され、その主な内容は転倒であった。 ○ 外部からの侵入者に対する不審者対応訓練については、日本防災通信協会山梨県支部職員による研修「施設における防犯対策」を実施し、全職員が不審者への対処方法等を確認した。また、さすまた、防犯スプレー等防犯用品の使用方法を再確認した。 ○ 緊急時に備えAED(自動体外式除細動器)の操作方法等の確認を行った。					
地域との連携	災害発生時に援護が必要な地域の障害者等の受け入れに関して、 <u>韮崎市との「災害時要援護者の福祉避難所の受入に関する協定」に基づく、具体的な受入れ体制の協議及び地元自治会や消防団との協力体制は、新型コロナウイルス対策と避難所としての施設の運営を両立するべく、韮崎市と協議を継続している。</u>					
地域生活移行支援	施設入所者の地域移行を推進するため、本人及び家族意向の相談受付体制等を整え、グループホームに1名、在宅生活に1名が移行した。					
社会福祉村等との連携	○福祉村の施設利用者及び支援学校の生徒が、退所後又は卒業後の利用先の選択肢となれるよう、連携強化と情報提供に積極的に関与した。 ○社会福祉村所属長会議が定期的に開催され、施設の現状報告や社会福祉村内でのまつりの開催や防災面での連携について課題を討議した。 ○福祉村内の親睦・交流を図る福祉村まつりについては、コロナ禍以降休止が続いているが、今後も当面休止することとなった。					
実習生の受入れ	福祉人材養成を目的とした大学等からの社会福祉援助技術現場実習や支援学校生の職場実習先として幅広く受入れ、福祉人材の育成と障害児・者の進路支援機関として積極的に協力した。					
	実習依頼先	人数	期間	目的		
	わかば支援学校	1人	5月14日～29日	現場(職場)実習		
	身延山大学	1人	8月19日～9月23日	資格取得実習		
	帝京科学大学	1人	9月2日～6日	資格取得実習		
	あけぼの支援学校	1人	9月17日～20日	現場(職場)実習		
	山梨大学	1人	10月21日～25日	資格取得実習		
受入者数 計5人						

前項同

公益的な
取 組 み

○ 施設貸出状況：東側駐車場（あけぼの医療福祉センター2回：研修会）
（山梨県高体連1回：サッカー試合）
○ 環境美化活動（市道25号線：清掃・ゴミ拾い 年4回）
○ 地元シニアクラブへの施設案内他（スポーツ交流等）中止

施設管理

○ 施設の保守管理に万全を期するとともに、安全・快適な環境を維持し利用者サービスの向上を図った。また、老朽化の著しい設備・備品等については適切な施設の維持管理を継続するため、次のとおり必要な改善を行った。
○ 建築設備、ボイラー設備、電気設備、消防設備、水回りなどの定期点検を専門業者に委託するとともに、自己点検を実施した。また、照明設備、備品、植栽、車両、施設周辺の点検及び清掃などを行い、安全で安心な居住空間の確保を留意した。
＜主な修繕・工事・主要点検＞
1 受水槽清掃 令和6年 4月13日
2 非常/火災通報装置保守点検（年4回） 4/5、7/9、10/8、1/15
3 厨房マンホール汚泥清掃（年3回） 4/2、7/22、11/28
4 電気設備定期点検（年6回） 5/15、7/9、9/10、11/14、1/16、3/18
5 屋上防水工事（居室・渡り廊下雨漏り） 4/18、7/2
6 浴室ガス乾燥機設置 4月25日
7 非常用発電機バッテリー交換 5月15日
8 水道水質検査 5月17日
9 火災通報装置、屋内消火栓設備機器等交換 6月 7日
10 峡北消防本部 防災設備点検 7月16日
11 防災機器設備点検（前期） 9月 3日
12 給油ボイラ、ろ過器、水道ポンプ室点検 10日17日
13 居室空調機、事務室エアコン室外機交換 令和7年 1/21、2/27
14 公用車両（車いす4台乗車）更新 2月28日
15 防災機器設備点検（後期） 3月 4日
16 R6年度建物・防火・建築設備定期点検 3月30日

衛生管理

○ 利用者には、生活の場としての意識づけを持たせる中、シーツ、カバー類の交換や居室の清掃などを職員と行う機会を持つとともに、オムツの供給、汚物処理、ごみ処理など専門業者と連絡を密にしながら適切な処理を行った。
○ 浴槽のレジオネラ菌の発生防止や水質管理についても専門業者に衛生管理を委託するなど生活環境の向上を図った。
○ コロナ・ノロウイルス感染症防止対策として、除菌による清掃の徹底及び食堂・作業棟・各トイレ等、出入りの多い箇所には、除菌スプレーを設置し衛生管理に努めた。また、空気清浄機を各居間・相談室・作業棟に設置した。

健康管理

○ 健康の保持・増進のため、異常の早期発見に努め必要な受診を支援した。
○ 個人の残存機能を見極め、機能維持できるよう支援した。
○ 適切な治療が継続できるように服薬管理・服薬支援を行った。
○ 新型コロナウイルス感染防止対策として、手洗い・消毒・マスク着用等を徹底するとともにワクチン接種に向けて各関係機関と調整を行い、施設内で1回の集団接種を実施した。
○ ノロウイルス感染症についても予防対策を講じていたが、施設内集団感染症（クラスター）が発生してしまった。幸い重症化する利用者はなく、水廻りの除菌・喚起を強化し、感染予防対策を徹底した。
○ 食中毒、インフルエンザ等の感染を防止するため、マニュアルに沿った対応を行った。
○ 血圧・体重測定で体調の変化を把握し、適切な指導・助言を行った。
○ 皮膚トラブルの予防や軽減のために、爪切り支援や軟膏塗布を支援した。
【別紙⑤ 医務実施状況】

食事支援

○ 「楽しくバランスよく食べる」を給食管理の基本として、健康生活の源となる食事支援を行った。
○ 疾病及び障害の程度や年齢など、身体状況に個人差が大きいいため、個々に適切な食事形態で安全に食事が摂れるよう配慮した。
○ 毎食、肉・魚、パン・麺等好みの料理が選べるセレクトメニューを実施した。
○ 年4回開催した給食委員会には、利用者と調理員も参加し、日々の食事内容や環境についての意見や要望が出され、給食に反映した。
○ コロナ禍からの影響もあり、外出制限や運動不足による骨粗しょう症が心配されるため、食生活で気を付けることなどの栄養教育を行った。
【別紙⑥ 給食実施状況】

苦情解決体制等	苦情解決体制	○ 利用者が施設で提供している福祉サービスに対し苦情はないか、また苦情の申し出方法についての認識度や環境等が整っているか常に把握し、提供する福祉サービスの質向上を図った。 ○ 苦情受付件数(総数) <u>令和6年度 0件</u> ○ 第三者委員への報告 <u>令和6年5月24日</u>に第三者委員に対して事案報告会を開催した。 (令和5年度分)
	相談支援	コロナ禍の影響が継続し、外出・外泊機会の減少及びマスク着用などの行動制限が課せられ、精神的なストレスが言動となって現れる利用者が見受けられた。少しでも快適な生活が営められるよう、日頃から悩みや要望を受入れるきめ細かい対応に配慮した。
	利用者満足度調査	○ 年度末に利用者満足度調査を実施し、利用者の要望等を把握してサービス向上に繋げている。年度を通じて利用者の出入りがあることから、前回調査等との比較検証は難しい面があるが、全般を通して作業内容や人間関係に関する要望等が多く、危険性があるような場合には、安全管理委員会に問題提起するなど、業務改善に取り組んだ。 ○ 年度末に職員による自己評価を実施し、自らのサービス内容の妥当性を評価し、問題を早期に発見し改善するため、結果をホームページに掲載するとともに、課題整理に取り組んだ。
事業所の平等な利用の確保	施設の運営	○ 施設ホームページの更新と活用により、施設利用を促進させると同時に、施設事業の実施状況をリアルタイムに発信した。 ○ 利用契約の際、利用者及び家族に対し当該事業の基本方針及び支援内容をわかりやすく説明するとともに、目標達成に向けた計画に基づいた支援を行った。 ○ 利用者に安心して利用していただける関係性の構築のため、接遇向上委員会では毎月目標を定め、接遇向上につなげている。 ○ 利用者の健康管理及び身体機能の維持・向上を目的として、同法人の療法師と看護師を中心に支援の充実に努めた。 ○ 施設事業の内容について、全体集会やオリエンテーション等で利用者への説明を行い、利用者の意向が反映できるよう支援を行った。 ○ コロナ感染症が5類に移行後は、家族等に情報提供しながら、短時間での面会や混雑した場所を避けての外出・外泊について理解と協力を求めた。 【別紙⑦ 事業実施状況】
	個人情報の保護	協会の定める個人情報保護規程に基づく「個人情報保護マニュアル」の周知・徹底を促し、利用者個人との接し方から外部来所者との関わりまで、職員の意識を高める取り組みを行った。また、利用者の個人情報を取り扱うことに対して、同意を得るための同意書確認を実施した。
次項同	職員確保	○ 新採用職員2名を迎え、職場定着を図る上から各課にOJT機能を充実させ、新任職員の適切な研修の実施と育成に努めた。 ○ 産休・育休・看護、介護休暇等に対して業務遂行に支障をなくすとともに、働きやすい職場環境づくりに取り組んだ。

安定的な施設運営のための人的体制

職員研修

福祉サービスの基盤である人材の育成と確保、さらには社会福祉法人の経営能力の向上が重要であることから、必要な研修会等に積極的に参加した。
また、職員間での情報共有とスキルアップを図るため、研修参加者からの復命研修を計画的に実施した。コロナウイルス感染防止対策のため、オンライン研修を積極的に受講した。

<外部研修>

開催期間	研 修 会 名	場 所	参加者
5月29日	社会就労センター協議会	甲府市	支援員
6月5日	障害者差別解消法に係る説明会 (オンライン研修)	施設内	所 長
6月21日	韮崎市自立支援協議会 (就労部会)	韮崎市	支援員
7月3日	ストレスチェック制度	甲府市	看護師
7月19日	安全運転管理者講習	韮崎市	管理課長
7月31日	工賃向上スキルアップ研修 (オンライン研修)	施設内	支援員
9月13日	介護予防 (身体機能と脳機能を高める運動)	甲府市	支援員
9月18日	給食施設従事者研修会 (オンライン研修)	施設内	栄養士
10月18日	韮崎市自立支援協議会 (就労部会)	韮崎市	支援員
11月7日	山梨県経営協スキルアップセミナー	甲府市	所 長
11月26日	ハラスメント研修 (安全配慮義務とメンタルヘルス対策)	甲府市	看護師
12月6日	高次脳機能障害、若年性認知症研修	山梨市	支援員
12月18日	障害者虐待防止・権利擁護基礎研修	甲府市	支援員
12月19日	社会就労センター協議会	甲府市	課長補佐
12月24日	自立支援に向けた基礎介護技術研修 (移動・移乗の介助)	甲府市	支援員

<所内研修>

4月30日	介護機器操作方法について (吊り上げ式リフト)	施設内	全職員
5月28日	防災設備について	施設内	全職員
7月30日	ストレスチェック制度について	施設内	全職員
7月30日	高次脳機能障害について	施設内	全職員
7月30日	安全運転管理者講習について	施設内	全職員
8月29日	衛生教育① (感染症対策：手洗いについて)	施設内	全職員
8月31日	衛生教育② (感染症対策：ガウンテクニック)	施設内	全職員
9月26日	不審者対応訓練 (福祉における防犯対策)	施設内	全職員
10月29日	身体拘束等適正化の推進	施設内	全職員
11月28日	安全配慮義務とメンタルヘルス対策、ハラスメント研修	施設内	全職員
1月29日	感染症対策 (嘔吐物処理方法)	施設内	全職員
1月29日	虐待防止・権利擁護について	施設内	全職員
3月27日	福祉職における接遇対応について	施設内	全職員

保険加入

賠償責任

施設や業務に起因する様々な損害賠償リスクをカバーするとともに、自動車の使用や管理に関する事故に備え、次のとおり保険に加入した。

施設賠償責任保険

対人賠償 1名につき 1億円 1事故につき 7億円
対物賠償 1事故につき 1千万円

自動車保険

対人賠償 無制限
対物賠償 1千万円